

内閣人事局における「ゆう活」の試行の結果について

資料4

○ 試行実施概要

- ・期 間:平成27年5月11日(月)~29日(金)までの3週間
- ・実施方法:期間中、1人5日以上(※)の実施に努め、勤務開始時刻を7時30分又は8時30分とする。
※ 連続した日数で実施するか、3週間内で日ごとに複数回実施しても可。
- ・実施組織等:内閣人事局(局総括、人事行政担当)
- ・実施者:110人(92.4%) 実施困難者: 9人(7.6%)
※実施困難事由:育児6名(うち1名男性職員)、妊娠による通勤緩和 2名、遠距離通勤 1名
- ・平均実施日数:1人当たり約6.2日(7:30勤務開始:約4割、8:30勤務開始:約6割)

○ 実施にあたっての工夫

- ・各自の帰宅目標時間の見える化(ポップの活用(右写真))
- ・幹部職員への説明等については、原則16:15までに終える
- ・管理職から定時退庁に関する積極的な呼びかけを実施
- ・各担当毎に業務効率化について検討し、実行
取組例:スケジュール及び情報共有の徹底、簡単な報告はメールを活用 等
- ・柔軟な運用(翌日の早朝勤務割振りを、業務状況に応じて前日夕方まで変更可) 等



○ 実施結果

- ・早朝出勤実施者の定時退庁割合 83.9%
- ・期間中の20時退庁割合 93.1%

※延べ人数割合

	定時退庁割合	20時退庁割合
1週目	81.9%	96.1%
2週目	87.8%	93.6%
3週目	81.9%	89.6%
計	83.9%	93.1%



職員アンケート結果

1 アンケート実施対象職員:全職員のうち、試行実施者100名からの回答を集計(内訳:70名男性職員、30名女性職員)

2 結果概要:87%の職員が「有意義」と回答

3 退庁後の活動例 ※複数回答可、括弧内は回答数

買い物(48)、家族との団らん(38)、文化活動や趣味(33)、職場関係者や友人との飲食等(26)、スポーツ(23)、育児・介護以外の家族のための用事(18)、育児や介護(17)、その他(家事、病院・美容院・銀行窓口等の用事等)

4 感想

【夕方の時間の活用について】

- 保育園の迎えが普段は19:00頃のところで、17:00過ぎに迎えに行けた。(40代男性、企画官級)
- 通常勤務日では実質不可能である子どもの風呂入れ、寝かしつけなど、育児に積極的に関与することができた。また、妻からも非常に好評であり、夏も積極的にやりたい。(30代男性、補佐級)
- 子どもに絵本の読み聞かせを「いつもの3冊増し」の出血大サービスが出来た。(30代女性、補佐級)
- 夕食の準備をしたところ共稼ぎの妻に感謝された。家族団らんの時間が増えた。(40代男性、企画官級)
- 土日は予約が大変取りづらいため、結婚式のドレスの試着に行けて助かった。(20代女性、係長級)

【意識変革・業務効率化】

- 早く帰るために、自分も含め周りの職員も業務の効率化をより強く意識するようになった。(40代男性、企画官級)
- 帰る時間を互いに意識しながら業務を進めることで、情報共有が今まで以上に進み、また互いの仕事についてフォローする雰囲気醸成され、パフォーマンスが向上した。(30代男性、補佐級)
- 朝型勤務が始まり、周囲も早く帰るので必然的に帰りやすい雰囲気となり、とても帰りやすかった。(20代女性、係員級)
- 早朝は頭が冴えているため、効率的に業務ができた。(20代女性、係員級)

【7・8月の「ゆう活」実施に向けた課題】

- 業務上残業せざるを得ない状況では早朝出勤が負担になった。(30代男性、係長級)
- 家族の帰宅が遅いため、出勤時間を早めたことにより、朝食をともにできなくなった。(20代女性、係員級)
- 連続で実施して生活リズムを一定のものとしたほうが、身体への負担が少ないと思われる。(40代男性、補佐級)
- 16:15、17:15、20:00の少し前に館内放送を行った方がいい。(40代男性、課長級)

5 まとめ

- 多くの職員が通常よりも勤務終了時間を意識し、業務をより効率化しようとする意識を持つ契機となった。
- 上司からの定時退庁への働きかけ等により、職場全体に帰りやすい雰囲気が醸成された。
- 多くの職員が、通常平日にはできないような有意義な時間を持つことができた。
- 柔軟な運用により、実施者の負担につながらないよう配慮が必要。